

## 平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想における官民協働型運営に向けた人材育成事業			
(2) 実施団体名	NPO法人 環境防災総合政策研究機構	(3) 対象地域	北海道 伊達市、洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町	
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	壮瞥町(洞爺湖周辺エコミュージアム推進協議会事務局)	
(6)実施した取組の内容	<b>取組①</b>	地域住民団体の交流体験会の実施		
	実施主体	NPO法人 環境防災総合政策研究機構、エコミュージアム推進協議会		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:地域住民・団体へのヒアリング調査、住民団体交流体験会</li> <li>・実施時期:平成20年8月～平成20年10月</li> <li>・実施場所:各住民団体の活動場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:地域住民・団体へのヒアリング調査、住民団体交流体験会</li> <li>・実施時期:平成20年8月～平成21年1月</li> <li>・実施場所:各住民団体の活動場所</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組みの目的:住民同士の継続的な連携と、知識やノウハウなどの共有。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組みの結果:ヒアリング調査を進める中で様々な意見が出たため、当初予定の3団体から6団体へと増やした。これまで一緒に活動したことがない豊浦町、壮瞥町、伊達市の住民団体が一同に会して交流でき、自治体の枠を超えて連携が図られた。ただし、洞爺湖町の参加団体が少なかったため、6箇所の実施を予定していたところ2箇所に変更したことにより、次年度以降、さらに交流体験会を行う必要性が出た。</li> </ul>	
	<b>取組②</b>	エコミュージアムガイド育成講座の試行		
	実施主体	NPO法人 環境防災総合政策研究機構、エコミュージアム推進協議会		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:エコミュージアムガイド育成講座実施</li> <li>・実施時期:平成20年8月～平成20年10月</li> <li>・実施場所:エコミュージアム情報発信施設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:エコミュージアムガイド育成講座実施</li> <li>・実施時期:平成21年2月(1回)～3月(2回)に実施予定</li> <li>・実施場所:エコミュージアム情報発信施設(伊達市防災センター、そうべつ情報館i)</li> <li>・実施概要:1市3町ですでにガイド活動をしている方を対象に、エコミュージアム全体のガイドのあり方および共通認識を図ることができるようテーマ別に開催する予定。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組みの目的:地域の資源や歴史、文化を学ぶ機会の創出。エコミュージアムの取組に参加する人材の発掘。</li> </ul>				
<b>取組③</b>	エコミュージアム住民エリア会議の実施			
実施主体	NPO法人 環境防災総合政策研究機構、エコミュージアム推進協議会			
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:住民会議の実施</li> <li>・実施時期:平成20年11月～平成20年12月</li> <li>・実施場所:エコミュージアム情報発信施設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:住民会議の実施</li> <li>・実施時期:平成21年1月～平成21年2月</li> <li>・実施場所:エコミュージアム情報発信施設(伊達市防災センター)</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組みの目的:エコミュージアムの方針づくりとリーダー人材の育成。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組みの結果:住民会議の継続的な実施の必要性が認められた。また、組織のあり方について議論され、行政との連携のあり方について議論された。(継続実施中)</li> </ul>		
(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担		取組の実施を踏まえた反省点	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人環境防災総合政策研究機構が中心となり、エコミュージアム推進協議会および以下の有識者と連携して実施。</li> <li>・エコミュージアム推進協議会 4市町(伊達市、洞爺湖町、豊浦町、壮瞥町) 北海道開発局室蘭開発建設部、北海道胆振支庁、後志森林管理所、環境省洞爺湖自然保護官事務所</li> <li>・岡田弘(北大名誉教授 理学博士)</li> <li>・宇井忠英(北大名誉教授 理学博士)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組① 住民団体へのヒアリング調査を実施した結果、エコミュージアムの周知不足、団体との事前協議のさらなる必要性が感じられたため、エコミュージアム及び交流体験会のメリットを伝える広報資料を作成することとした。</li> <li>・取組③ 住民会議においてエコミュージアム推進協議会との具体的な連携方策も模索中であり、住民のみの組織作りに向けた課題も浮き出たことにより、より深い展開を図るために次年度以降も住民自主会議を開催することとなった。</li> </ul>	

(8) 取組により得られた成果	○成果1→ 官民協働型地域振興と地域の活性化		
		H19	H20(当初予定していた目標)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源を発掘する住民ワークショップを実施</li> <li>エコミュージアムのホームページ、エコミュージアムツアーパンフレット等の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域情報を住民から来訪者に向けて提供するなど新たな観光振興をすすめる。(観光入込客数の増～25% (2000年噴火前水準の水準))</li> </ul>
		H20(実際に得られた成果)	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>1市3町の住民ガイドが一同に会して連携するエコミュージアムジオツアーが実施されるなど、広域連携の観光スタイルが形成された。(観光客入込数～前年度比7%増(H19年度下半期～H20年度上半期の合計とH18年度との比較) 参考:全道3.4%減)</li> <li>壮瞥町に新たにオープンした情報館がエコミュージアムの情報発信コアセンターとして機能し、地域ガイドの拠点として住民から情報発信された。(来館者数～リニューアル前比47.1%増(H19.11月オープンのため4-10月まとめ))</li> <li>連携団体であるエコミュージアム推進協議会の申請により世界ジオパークの国内登録第1号の候補地となったことで注目が増すとともに、観光振興の寄与に期待ができる。</li> </ul>	
	○成果2→ 生涯学習と将来の減災効果		
		H19	H20(当初予定していた目標)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>「洞爺湖有珠山火山マイスター制度」の検討(北海道胆振支庁)</li> <li>住民が自主的に各地域でボランティアガイドを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコミュージアムガイドの方針策定及びガイド制度を試行し、地域住民・団体のネットワーク化を図る。(試行講座への住民参加～300名)</li> <li>(ガイド制度への登録団体～20団体)</li> </ul>
		H20(実際に得られた成果)	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイド試行講座へ住民100名参加予定</li> <li>ガイド制度へ15団体登録予定</li> <li>世界ジオパークの国内登録第1号の候補地となった理由は、当地域が防災教育に力を入れるなど火山と共生する取組が行われ、ガイドボランティアなど住民参加型の地域振興の取組が高く評価されたところによると言われている。</li> </ul>	
	広域的な地域連携と生活圏域の創出		
		H19	H20(当初予定していた目標)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民や関係機関職員向けの研修説明会の実施</li> <li>コア施設などに共通デザインの看板、誘導サインを設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民や既存の地域住民対象に交流体験会を開催し、4市町における地域資源、人の連携・交流を促進しつつ、ネットワーク化を推進する。(エコミュージアムガイド名簿の作成)</li> </ul>	
	H20(実際に得られた成果)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本ジオパーク委員会にも評価された当地域の住民団体の活動であるが、これまで一緒に活動したことがなく、当事業の実施により行政区域の枠を超え連携が図られた。</li> <li>住民会議(民)とエコミュージアム推進協議会(官)との恒常的な情報交換方法(メーリングリスト、FAX送信網)が設けられるなど、新たな広域連携・交流が推進された。</li> <li>ネットワーク化の推進に資するため、エコミュージアムガイド講座試行に伴う名簿を作成する予定。</li> </ul>		
(9) 今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民・団体へのヒアリング調査の結果として、エコミュージアムについての認識が十分でないことが明らかになったため、次の段階として地域の認識を高めるための広報、普及活動のより一層の強化と住民団体交流体験会を継続する必要があることが判明した。</li> <li>住民のみの広域的な組織作りには、どのような方法で合意形成を図るべきか、行政との連携はどうあるべきかなどの課題が明らかとなったため、住民会議の継続的な実施の必要性が認められた。</li> <li>世界ジオパーク国内登録第1号の候補地となったことを好機と捉え、エコミュージアムガイドやプロモーション活動の本格展開を多様に行う必要があると考える。</li> </ul>		

	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度
(10)平成21年度以降の活動の見込み	<p>【運営委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会の設立</li> <li>・官民協働の運営会議の開催</li> </ul>	<p>1.住民会議の継続            実施主体:住民会議(今年組織された会議が自主的に開催)            実施概要:住民の役割、具体的な活動方針を検討していく。</p> <p>2.運営委員会の設立            実施主体:エコミュージアム推進協議会            実施概要:住民会議を組織化し、エコミュージアムの運営委員会として設立する。</p> <p>3.官民協働の運営会議の開催            実施主体:エコミュージアム推進協議会            実施概要:住民会議と行政機関、有識者が三位一体となり、エコミュージアムの推進に向けた取組を話し合う。            [活用を希望する制度:なし(エコミュージアム推進協議会自主財源)]</p>
	<p>【エコミュージアムガイド制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコミュージアムガイド制度の本格的な施行</li> </ul>	<p>1.エコミュージアムガイド制度の本格的な施行            実施主体:エコミュージアム推進協議会、北海道胆振支庁            実施概要:北海道胆振支庁で進める火山マイスター制度と連携し、エコミュージアムガイド制度を本格的に試行する。火山マイスター制度の枠組みを火山以外のテーマ「歴史遺産」「動植物」などに展開し、「火山」「歴史遺産」「動植物」などのテーマごとのガイド制度を展開する。            [活用を希望する制度:なし(北海道胆振支庁による運営支援)]</p>
	<p>【プロモーション活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコミュージアムモデルツアーによる観光ニーズの把握</li> <li>・エコミュージアム端末情報サービス</li> <li>・道の駅等における携帯電話へのエコ情報サービス</li> <li>・旅行代理店等との連携プロモーション</li> <li>・サテライトガイドブックの作成</li> </ul>	<p>1.エコミュージアムモデルツアーによる観光ニーズの把握            実施主体:NPO法人環境防災総合政策研究機構、エコミュージアム推進協議会            実施概要:エコミュージアムのサテライト(観光ポイント)を回るモデルツアーを実施し、アンケート調査などにより、サテライトの評価、ツアーコースの評価を行う。アンケート結果を分析し、サテライトの整備の方向性、ガイドへの要望等を把握することで、観光資源としての充実を図る。また、1市3町の観光協会等と連携してモデルツアーを実施することで、ホテル等の事業者との連携強化を図るとともに、自治体間の広域連携強化も図る。</p> <p>2.サテライトガイドブックの作成            実施主体:NPO法人環境防災総合政策研究機構、エコミュージアム推進協議会            実施概要:サテライトを紹介する現地看板は設置されているが、まとまった広報素材がないため、各サテライトを紹介するガイドブックを作成し、地域住民、観光客、旅行代理店等へエコミュージアムの見所を広報する。</p> <p>3.旅行代理店等との連携プロモーション            実施主体:NPO法人環境防災総合政策研究機構、エコミュージアム推進協議会            実施概要:北海道洞爺湖サミットおよび世界ジオパーク国内登録第1号の候補地となったことを活かし、旅行代理店等へ地域ガイド等と連携した新たな観光形態をPRする。2において作成したガイドブックやモデルツアーにより検討したツアーコースプランなどを旅行代理店へ情報提供し、北海道内の旅行代理店で商品として扱ってもらう。また、近年北海道観光の需要が高い中国、台湾などへのPR活動を検討し、国際観光地として旅行代理店等と連携したプロモーション活動を推進する。            [活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1,100万円)]</p>
	<p>【エコミュージアム基盤整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サテライト等を解説する看板の設置、誘導サインの設置等</li> </ul>	<p>1.サテライト等を解説する看板の設置、誘導サインの設置等            実施主体:エコミュージアム推進協議会            実施概要:H20年度に新たに整備されたフットパスや散策路などに解説看板を設置する。また、情報発信施設等への誘導サインについても設置検討を行う。            [活用を希望する制度:なし(エコミュージアム推進協議会自主財源)]</p>

◆主な実施取組の内容◆

取組① 地域住民団体の交流体験会の実施

実施主体:NPO法人 環境防災総合政策研究機構  
エコミュージアム推進協議会

実施内容・結果:

- ・実施時期:平成20年8月~平成21年1月
- ・参加者:延べ数約60名
- ・取組みの結果:これまで一緒に活動したことの無い豊浦町、壮瞥町、伊達市の住民団体が一同に会して交流でき、自治体の枠を超えて連携が図られた。



エコミュージアムエリアと活動団体の  
拠点位置図  
(交流会で使用した図面)



小幌洞窟での交流体験会(豊浦町)



北黄金貝塚公園での交流体験会(伊達市)

取組③ エコミュージアム住民エリア会議の実施

実施主体:NPO法人 環境防災総合政策研究機構  
エコミュージアム推進協議会

実施内容・結果:

- ・実施時期:平成21年1月~平成21年2月
- ・実施場所:エコミュージアム情報発信施設(伊達市防災センター)
- ・参加者:約30名
- ・取組みの結果:  
住民会議の継続的な実施の必要性が認められた。また、組織のあり方について議論され、行政との連携のあり方について議論された。

【住民から出された課題】

- ・地域全体での幅広い組織連携と一体化が必要
- ・行政も民間も観光協会も住民も全てを網羅する会の設立が必要
- ・素人集団で皆でやろうといっても難しくなかなか進まない など



住民会議の様子(伊達市)



住民会議の様子(伊達市)

◆取組実施による成果・今後の展開◆

【官民協働型地域振興と地域の活性化】

- ・1市3町の住民ガイドが一同に会して連携するエコミュージアムジオツアーが実施された。→広域連携の観光スタイル形成。観光客入込数~前年度比7%増(参考:全道3.4%減)
- ・連携団体であるエコミュージアム推進協議会の申請により、世界ジオパークの国内登録第1号の候補地に決定 → 注目度がUP!

【広域的な地域連携と生活圏域の創出】

- ・各々の住民団体が積極的な活動を行ってきたが、協働して活動した実績が無かった。→ 当事業により行政区域の枠を超えた連携が実現!

『今後の展開』 推進協議会と住民運営委員会による本格的なエコミュージアムの運営を開始!(運営委員会の設立とエコミュージアムガイドやプロモーション活動の本格展開など)